

●論壇

運転者対策について

勝田俊男*

The Driver in Policy Focus

Toshio KATSUTA*

交通事故は昭和46年以来連続減少を続け、昨年の死者は1万人を割った。昭和34年に1万人をこえて以来18年ぶりであり、ピークの昭和45年より40%以上の減少である。この減少傾向を今後も維持し、交通事故による死者をピーク時の半分以上とすることが当面の目標であるが、事故率が下がれば下がる程さらに減少させることが難しくなることも事実である。従来の減少傾向を維持するためには従来以上の対策の必要なことは当然である。

交通安全対策として最も早く取り上げられ、そして今も交通安全の窮極の問題とも考えられるものに運転者対策がある。交通事故をどこまで減少できるかは窮極的には運転者の資質をどこまで向上できるかにかかっているからである。その検討は交通安全のための不断の課題である。運転免許の保有者は昨年末には3500万人をこえた。ごく僅かの例外をのぞいてその意思さえあれば誰もが免許をとれる状態であり、免許保有者は今後も増加を続けるであろう。多種多様な素質と性格を持った人が免許をもつことになるのであるから、免許を取得するまでの教育は極めて重要である。この間に法令の知識やハンドル操作等の技能ばかりでなく、安全運転の技能と習性を身につけて貰いたいと思う。免許試験はこの教育に大きな影響を及ぼし得るものである。このような観点から免許試験のチェックポイントについて検討をする必要がある。

免許取得後の教育の機会には制度的には必ずしも多くはない。3年に1回の更新時講習の他は処分を受けた人に対する講習があるに過ぎない。安全運転管理者等による職場における安全教育、安全協会等による地域における安全教育の意義は大きく、その成果も数多く報告されているところである。

教育の場の拡充と教育内容の改善が今後の課題である。職場地域における教育の拡大とともに、希望者が容易に教育を受けられる場の提供も検討されるべきであろう。また教育内容の改善のためには、運転者を中心とした交通事故の分析、運転者心理の研究をさらにすすめる必要がある。

昨年の交通違反の取締り件数は約1200万件に及んでいる。交通事故の大半は交通違反を伴うものであり、交通ルールを守ることは安全教育の第一歩である。取締りはルールを守ることを強制することにより、事故の防止に直接寄与するものであるが、同時に教育を補完し、ルールを守る習性を身につけさせようとするものである。違反の実態と運転者心理に焦点をあて、その効果が定着するような取締りの手法について検討する必要がある。

3500万人の運転者に教育を徹底することは極めて困難である。しかし、その教育の基本は安全運転に心がける気持ちを持たせることである。それは家族にもできることである。安全教育の場は何時何処にでもあり、また世論の影響も極めて大きいと思う。

先般 coronab 計画により開発途上国の交通警察官が研修のため来日した。彼等は我が国の運転者のマナーを異口同音にほめていた。我々はまだ不十分と考えているが、運転者の資質も逐次向上しており、これが事故減少にも寄与していると思う。ふりかえってみればかつての警音器の騒音は今では殆ど聞かれない。世論を背景とした教育と指導取締り、これが直しきを得れば、今後も運転者の資質の向上に十分期待ができると思う。

*警察庁交通局長（昭和52年2月18日付で関東管区警察局長に転出）
Director General, Traffic Bureau, National Police Agency